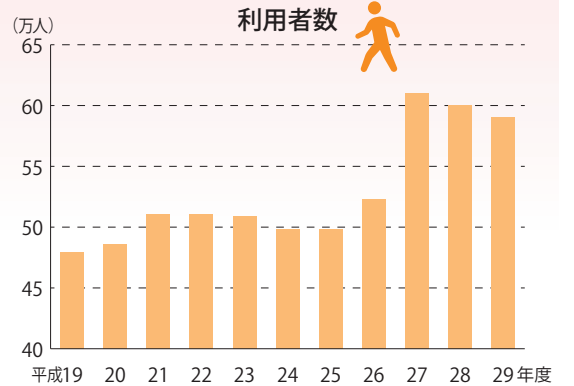
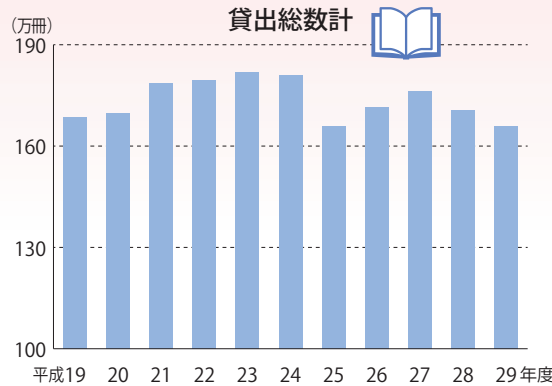


立川市図書館 40周年を迎えて未来へ

立川市図書館は今年で40周年を迎えました。昭和53年7月に図書館条例が制定され、地区図書館を開館し、平成7年に中央図書館が開館しました。40年間の皆さまのご利用に感謝するとともに、これからも新たな企画も取り入れて市民の皆さまと共に歩んでまいりますので、ぜひお近くの図書館にお立ち寄りください。

☎中央図書館 ☎(528) 6800



本との出会いの場としての図書館

数多くの本が出版される中、さまざまな情報から本を選ぶ楽しさは格別です。図書館では市内の関連機関などと連携して時節に合った展示を行い、所蔵する本を紹介しています。利用者の皆さまと本の出会いの場づくりを通して、新たな交流の起点ともなる役割も果たしていきます。



本好きな子どもが育つ図書館をめざして

0歳から参加できるおはなし会をはじめ、市内小・中学校への本の貸し出し、お薦めの本を紹介するポップバトル、ビブリオバトルなど、常に身近なところに本があり、交流できる場所として図書館は活動しています。これからも本好きな子どもが育つ図書館をめざしてさまざまな催しを企画していきます。



くらしに役立つ図書館

就職、子育て、健康など、さまざまなライフステージについて、考えるヒントになるようなコーナーづくりや調べもののお手伝いをしています。「図書館に行けばくらしに役立つ情報がある」と多くの方に思っただけのよう、さまざまな工夫をしていきます。



立川市は首都圏の「業務核都市」として位置づけられ、国や東京都の各機関が多く集まっています。これらの機関が集中する市域の中央部分、広域防災基地や国営昭和記念公園がある場所が、かつて立川飛行場であったこととはご存じでしょうか。

第一次世界大戦(1914〔大正3〕年)〜1918〔大正7〕年)をきっかけとして、飛行機の実用性が着目されるようになると、日本でも東京の近郊に飛行場を造ろうとする動きが出てきました。立川は、鉄道(中央線)が通っており、物資輸送や東京市内からの交通の便がいいこと、また人家も少なく、平地が広がっていたことなどから、飛行場建設地に選定され、1922(大正11)年に立川飛行場が完成しました。完成当初は陸軍飛行第五大隊の拠点として軍事色の強い飛行場でしたが、翌年の1923(大正12)年に関東大震災が起これると、壊滅的な被害を受けた民間航空機能も立川に移されてきました。民間使用が始まると、旅客、貨物、郵便などの定期運航のほか、遊覧飛行での利用者も増え、外国の有名飛行家や俳優などの著名人、一般の旅行者も訪れるようになりました。以降、1933(昭和8)年に羽田飛行場へ民間航空機能が完全に移されるまで、立川は「空の都」、空の玄関口として大いににぎわいを見せます。



民間航空機関が集まる飛行場の西地区

立川市の歴史と文化財

37

立川飛行場からの遊覧飛行

立川飛行場を利用した著名人にはさまざまな人がいますが、歌人として有名な斎藤茂吉(1882〔明治15〕年〜1953〔昭和28〕年)もそのひとりです。茂吉は、文化人を飛行機に乗せて即興で創作してもらうという東京朝日新聞社による企画「空中競詠」のため、1929(昭和4)年11月28日に、立川飛行場から操縦士のほか同世代の人気歌人であった土岐善麿、前田夕暮、吉植庄亮とともに同社機のコメット第102号機に搭乗、遊覧飛行しました。茂吉の日記には、飛行当日が「天気晴朗」であり、「朝七時ノ新宿発ノ電車ニテ立川ニ下リ、自動車(七十銭)ニテ」立川飛行場に行ったとあります。茂吉らに乗せた飛行機は、東京府域や横浜、箱根、秩父の山々の上空を2時間15分にわたり航行し、立川飛行場へ「午後零時十七分」(連作「虚空小吟」中のメモより引用)に着陸しています。

茂吉はこの飛行体験をもとに、当日の即詠と、後日詠んだという即吟「飛行機」、連作「虚空小吟」、あわせて60首もの歌を詠んでいます。その体裁からも有名な「電信隊浄水池女子大学刑務所射撃場塹壕赤羽の鉄橋隅田川品川湾」もこの企画で詠まれたものです。また、「われより、幾代か後の子孫ども今日の我が得意をけだし笑はむ」というユニークな歌も詠んでいます。東京から大阪までの飛行機の搭乗運賃が30円(大卒初任給の半分程度)という高額で、飛行機に乗ること自体がもの珍しい事件だった時代にあつて、自身の飛行体験を子々孫々へ向けて得意げに表現しています。

歴史民俗資料館では12月2日(日)まで、立川の街の変化に密接に関わってきた立川飛行場の歴史を振り返る企画展「空の都たちかわー立川飛行場の歩み」を開催中です。多くの皆さまのご来館をお待ちしています。

☎歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係) ☎(525) 0860